2014/2015 シーズン　2014 年 12 月 25 日

横浜市インフルエンザ流行情報　6 号

横浜市健康福祉局健康安全課　／　横浜市衛生研究所

《トピックス》

- インフルエンザの流行が拡大しています。
- 今シーズン初めてインフルエンザ脳症の報告がありました。入院例も増加しており、重症化にも注意が必要です。

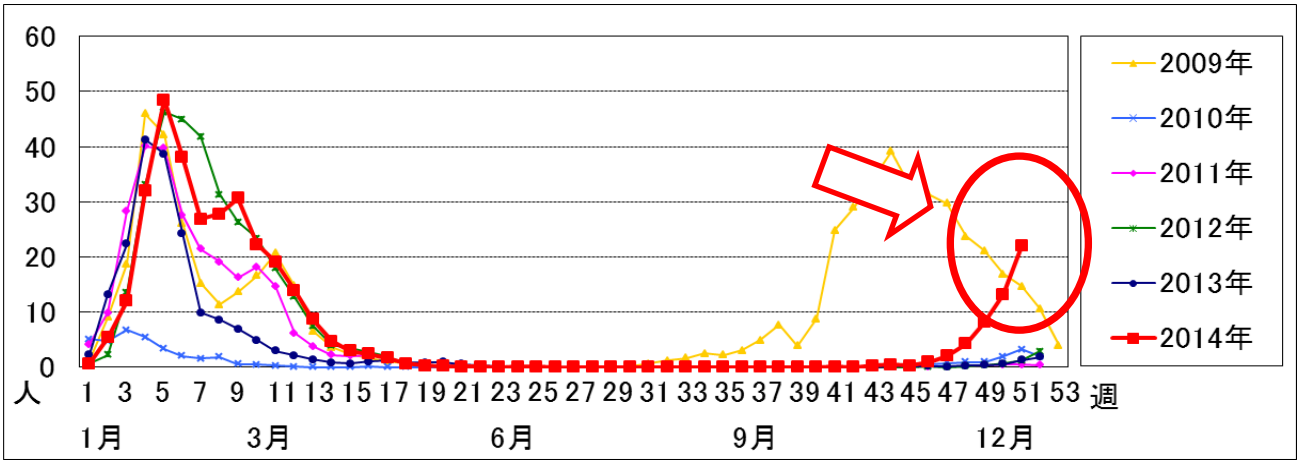
【概況】

2014 年第 51 週(12 月 15～21 日)の定点※1 あたりの患者報告数は、横浜市全体で 21.96 と、急激に増加しています。区別では都筑区 48.50、緑区 39.60、瀬谷区 31.50 で警報発令基準値 30.00 を超える流行となっています。第 51 週には今シーズン初めてインフルエンザ脳症が 2 件報告されており、重症化にも注意が必要です。また、インフルエンザによる入院患者数も増加しています。
第 51 週の迅速キットの結果は依然として A 型が 98.8%と、ほとんどを占めており、その主体は全国同様 AH3 亜型(A 香港型)です。いままでのところ主な薬剤への耐性は確認されていません。ワクチン接種だけでなく、手洗いや早期受診などの対策※2 が重要です。

※1　定点・・定点とは、毎週インフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内約 150 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。
※2 インフルエンザ予防チラシ(横浜市)

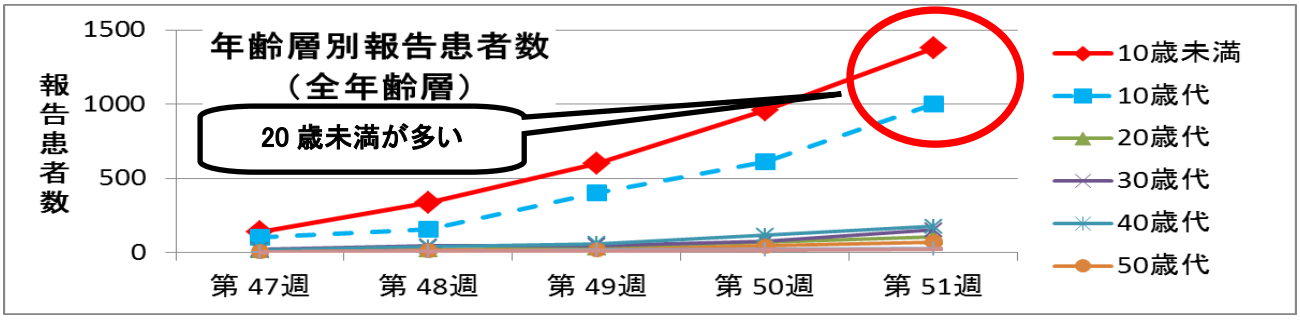
1　市内流行状況：市全体の定点あたりの患者報告数は、第 50 週 13.22※3 から第 51 週 21.96 と急激に増加しています。

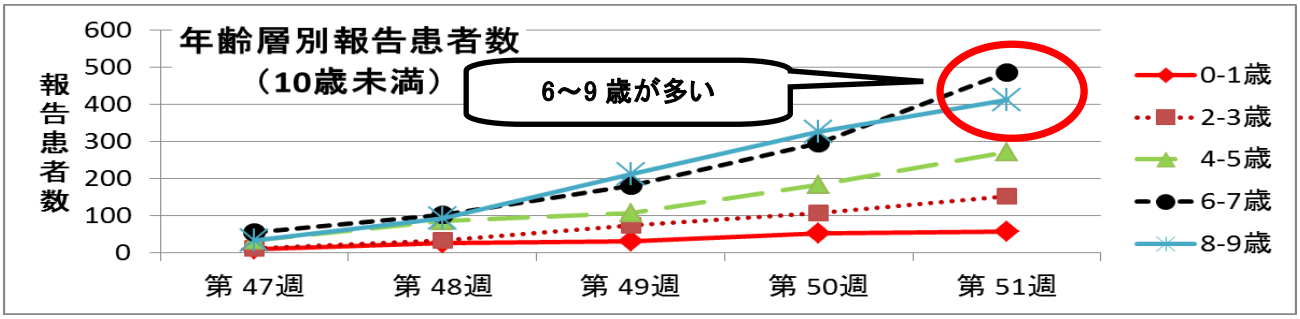
※3 第 50 週 13.22・・先週の流行情報では第 50 週 13.28 と報告しましたが、その後医療機関から追加報告があり、数値が変動しました。



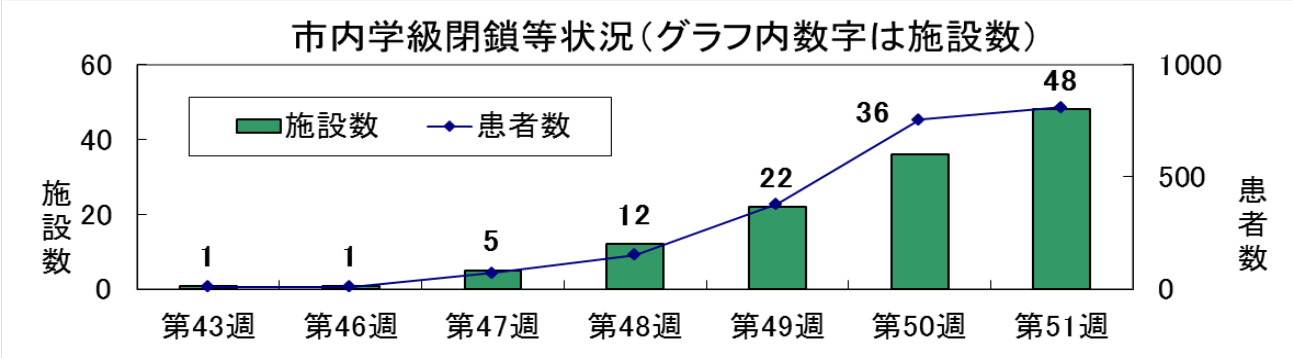
参考：近隣自治体の流行状況　東京都、神奈川県、川崎市

2　年齢層別患者報告数：直近 5 週間（第 47～51 週）では、**20 歳未満の増加**が著しくなっています。10 歳未満の報告の内訳を見てみると、**6～9 歳**が最も多くなっています。直近 5 週間の累計では **20 歳未満の患者が全体の 82.3%**を占めています。



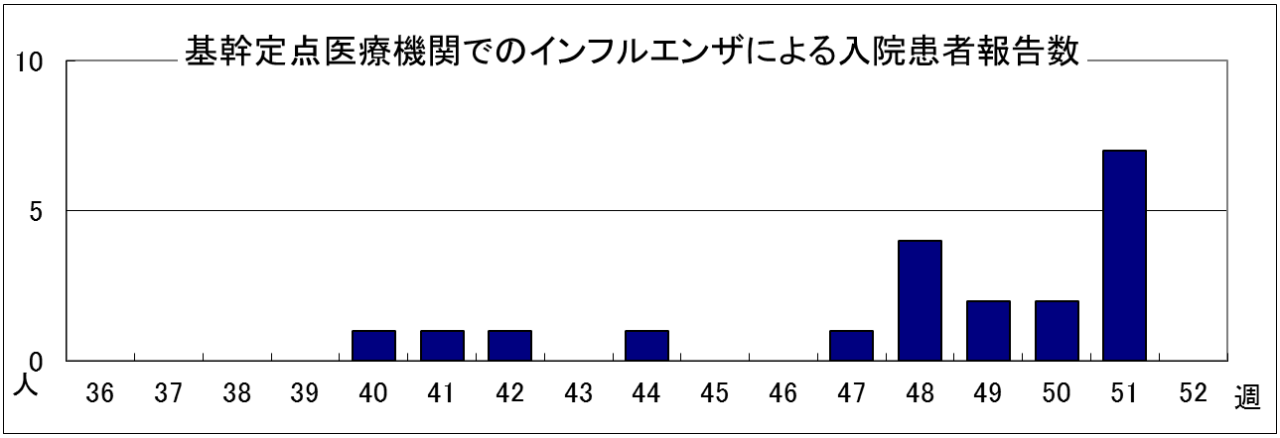


3　市内学級閉鎖等状況：市内閉鎖施設数が**増加**し続けています。第 51 週の施設種別では、小学校 44 件、中学校 3 件、幼稚園 1 件でした。



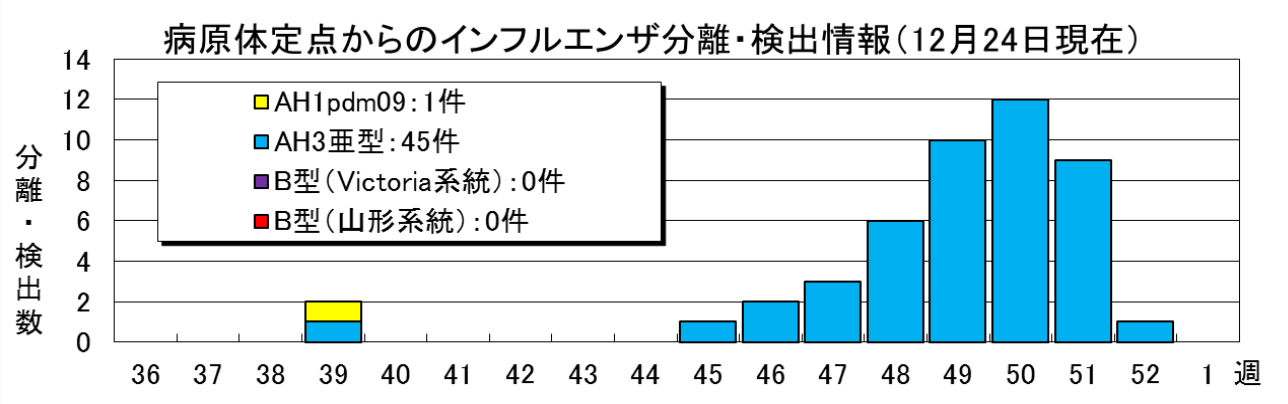
4　入院サーベイランス：市内基幹定点医療機関※4 における、インフルエンザ入院患者は第 47 週以降継続して報告されていますが、第 51 週は大幅に増加しています。患者は**小児**と**高齢者**です。

※4　基幹定点：患者を 300 人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。

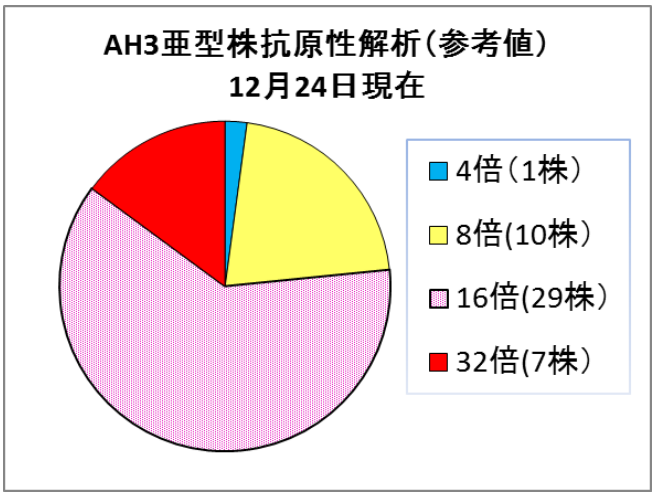


5　インフルエンザ脳症：第 51 週に報告が 2 件（幼児及び成人）ありました。どちらも迅速キットで A 型と確認されています。今後、さらなる流行が予測されるので、重症化に注意が必要です。

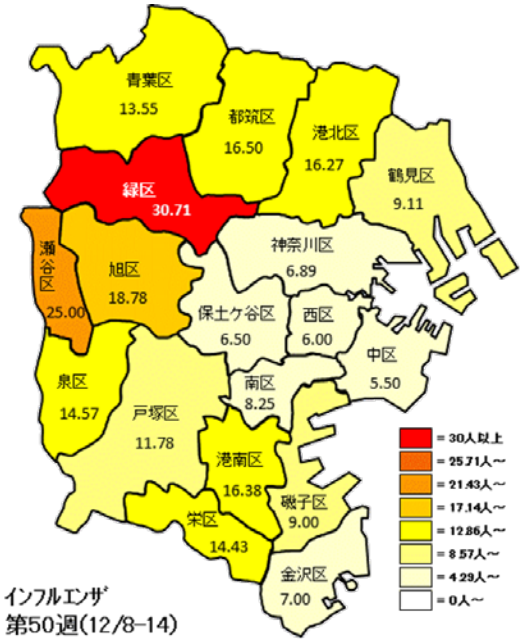
6 市内病原体検出状況：市内では病原体定点から今シーズン計 46 件インフルエンザウイルスが分離・検出されていますが、第 39 週に AH1pdm09 が 1 件検出されて以降は<u>すべて AH3 亜型</u>です。

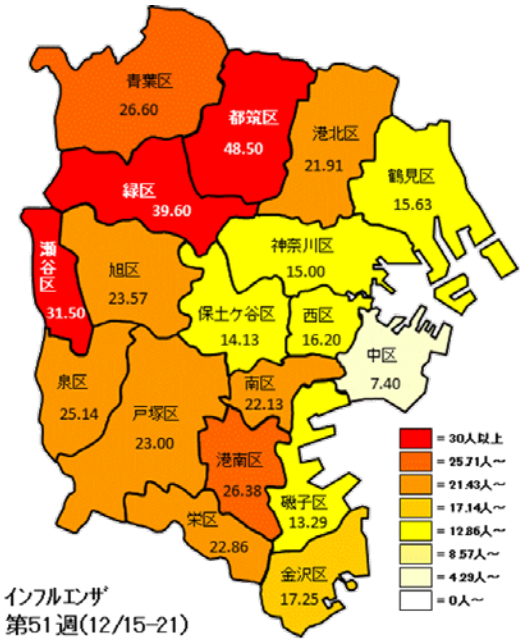


7 分離株の抗原性解析と薬剤感受性検査：市内で検出された AH3 亜型株（病原体定点以外も含む）のワクチン株との抗原性解析（HI 試験）では、<u>ほとんどの株が HI 価 8 倍以上</u>でした。一般的に 4 倍以内でワクチン株と類似していると言われています。ただ、今回の解析にはウサギの血清を使っており、参考値です。正確な結果は国立感染症研究所での分析を待つ必要があります。薬剤感受性試験では、横浜市内の株で今シーズンで検査した範囲では、<u>主な薬剤への感受性低下は認めていません</u>。



8 地図で表した直近 2 週間の区別流行状況（塗り分けの数字は定点あたり報告数）





【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237